

(12)舎飼期とうもろこしサイレージ・脱水でん粉粕<sup>1)</sup>給与による外国肉専用種の育成肥育

新得畜産試験場 肉牛科

1.試験のねらい

近年、飼料自給率の高い低コストの牛肉生産が必要とされているが、飼養期間を極端に延長することなく出荷するためには、栄養価の高い自給飼料及び副産物の利用が考えられる。本試験では自給飼料としてとうもろこしサイレージを、副産物として脱水でん粉粕を給与した牛肉生産を検討した。

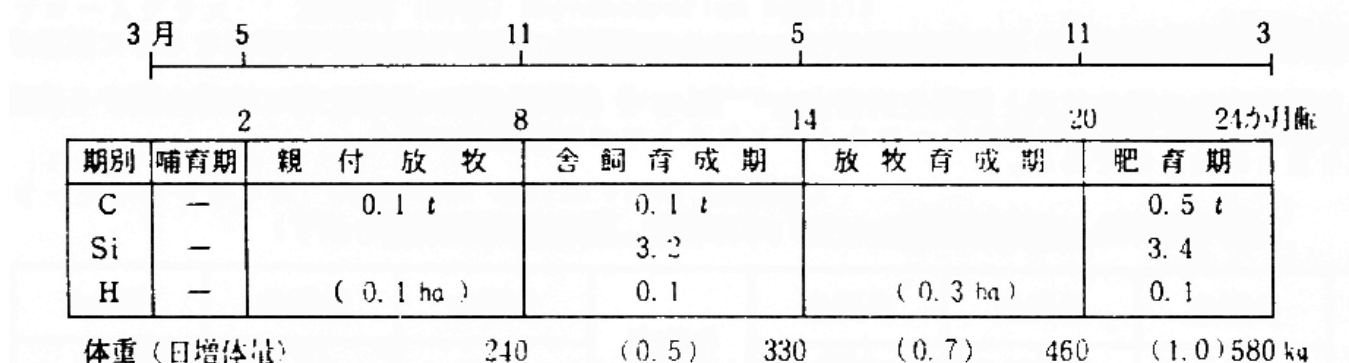
2.試験の方法

新得畜産試験のアバディーン・アンガス及びヘレフォード去勢牛を用いて、放牧利用の肥育方式における舎飼期に、とうもろこしサイレージ又は脱水でん粉粕を飽食給与し、その産肉性を調査した。

3.試験の結果

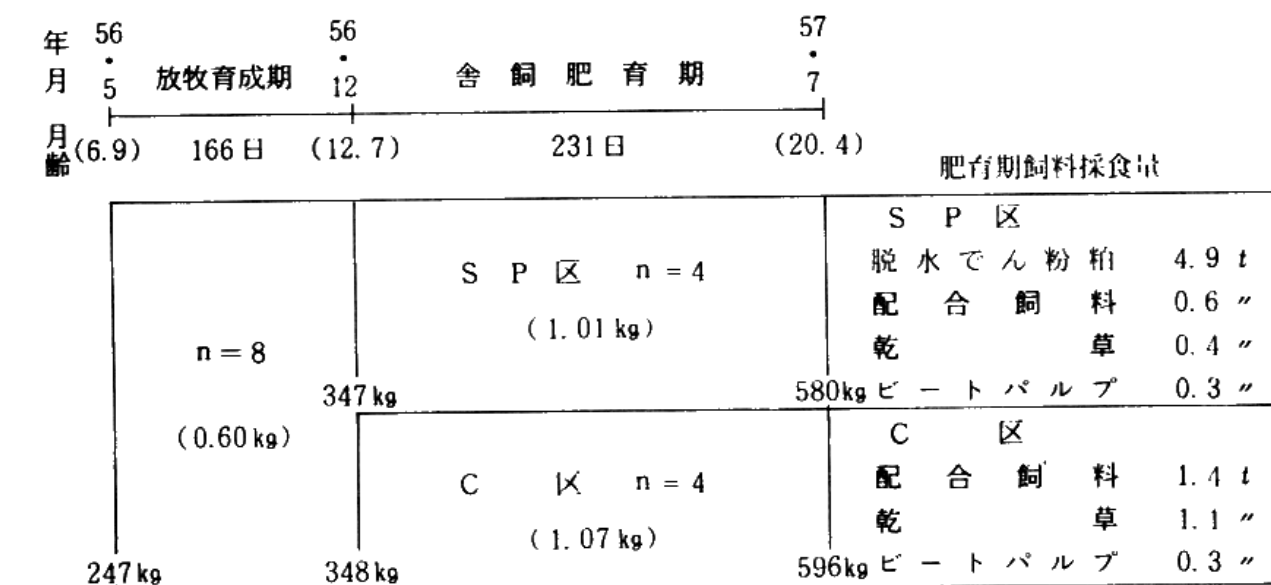
1)放牧と、とうもろこしサイレージ給与を組み合わせることによって、25ヶ月令で約330kgの枝肉生産が可能で、これに要する配合飼料は0.5t程度でよいことが認められた。2)放牧と、とうもろこしサイレージ給与を組み合わせることによって、配合飼料は無給与でも25ヶ月令で310kg程度の枝肉生産が可能であった。3)放牧と舎飼期とうもろこしサイレージ(糊熟後期<sup>2)</sup>)調製給与による育成肥育モデルを作成した(図1)。4)脱水でん粉粕を飽食給与することによって、20ヶ月令で約320kgの枝肉生産が可能であった。この方式を濃厚飼料多給型の牛肉生産に比較すると、配合飼料、乾草ともに約60%節減できた(図2)。

図-1 放牧と舎飼期とうもろこしサイレージ給与による育成肥育モデル(春生れ)



注) C : 市販配合飼料, Si : とうもろこしサイレージ(糊熟後期), H : 乾草

図-2 脱水でん粉粕給与による外国肉専用種の育成肥育



注)供試牛:秋生れヘレフォード去勢牛,( kg):日増体量

SP区:脱水でん粉粕,乾草自由採食,市販配合ペレット「肉牛育成用」制限給与

C区:市販配合ペレット「肉牛育成用」体重比1.6%給与,乾草自由採食

1) 2シーズン放牧:育成肥育方式には生時から出荷までのすべての期間を牛舎内で飼養する方式と、その間に放牧をとり入れる方式があるが、本試験では2回の放牧利用について検討した。

2) TDN(可消化総養分量):飼料の栄養化を示す単位。

3) NPN(非蛋白窒素化合物):牛は第一胃内微生物によって蛋白質でない窒素化合物も蛋白質に変えて利用できる。

4) 代償性成長:一般に動物は、ある時期に低栄養の処理を受けると成長が停滞するが低栄養の条件がとかれると普通以上の成長を示す。この現象を代償性成長と呼び、本試験の飼養方式での大きな柱としている。

5) ピートパルプペレット:ビートのしぼりかすを飼料として利用したもの。

6) 濃厚飼料主体の育成肥育:配合飼料を3.6～4t給与し、16～18か月齢、体重650kgで出荷する方式。

---

[目次へ戻る](#)